

# 「世界水準の観光地」の形成に向けて

---

国土交通省 北海道局

令和元年11月

○8期計画のポイントは、北海道の強みである「食」と「観光」を戦略的産業として位置付け、食と観光を担う「生産空間」を支えながら、「世界水準の価値創造空間」の形成を目指すこと。  
 ○「食料供給基地としての持続的発展」「世界水準の観光地の形成」「食と観光を担う「生産空間」を支える取組」に重点を置き計画の推進を図る。

## 北海道総合開発計画の推進

《計画期間》2016(平成28)～2025(令和7)年度の10年間

北海道の開発は、北海道の豊富な資源や広大な国土を利用し、我が国全体の安定と発展に寄与することを目的として行われています。  
 8期目となる北海道総合開発計画（平成28年3月閣議決定）は、「食」や「観光」など北海道の強みを活かし、本格的な人口減少時代にあっても人々が豊かな暮らしを送ることができる地域社会の形成を図るとともに、我が国全体への貢献を目指します。

キャッチフレーズは「**世界の北海道**」

世界的なブランド力・価値創造力で  
 世界の人々に評価される、  
**「世界水準の価値創造空間」**  
 の形成を目指します。

価値創造の例

- 新製品・新産業を生み出し、地域に稼ぎを生み出す
- 社会が直面する課題に対し、新たな解決策を提案・実行する
- 新たなライフスタイルを实践し、人々の生き方・暮らし方を変える



「アイヌ施策の総合的かつ継続的な実施」  
 2019年4月19日に第198回国会において「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」が成立しました。  
 また、アイヌ文化の復興等を促進するため、北海道白老町に民族共生象徴空間（愛称：ウポポイ）を整備しており、2020年4月24日の一般公開に向け開業準備を推進しています。

**ウポポイ**  
 2020.4.24  
 北海道白老町に開業

## 計画のポイント

### 【北海道の強み】

- 北海道は我が国の食料供給基地
- 食の輸出、外国人観光客も急増

道産食品輸出額：9年で約3倍に  
 来道外国人旅行者数：14年で約10倍に

### 【北海道の課題】

- 北海道の人口減少は全国よりも10年先に進展
- 地方部では無人化が急速に進行
- 本州等とは距離感の異なる広域分散型社会

人口及び高齢化率の推移  
 人口分布の推計

来たるべき10年は、「生産空間のサバイバル」、「地域としての生き残り」を賭けた重要な期間

### 【これからの北海道の戦略】

**「食」「観光」が戦略的産業**  
 ～人口減少時代にあっても、  
 ①北海道には世界と競争し得るポテンシャル  
 ②アジアなど世界の市場が拡大傾向

農林水産業、観光等を担う**「生産空間」**を支え**「世界の北海道」**を目指す

社会や時代の要請を踏まえながら、着実に計画を推進

### 重点的に取り組む事項

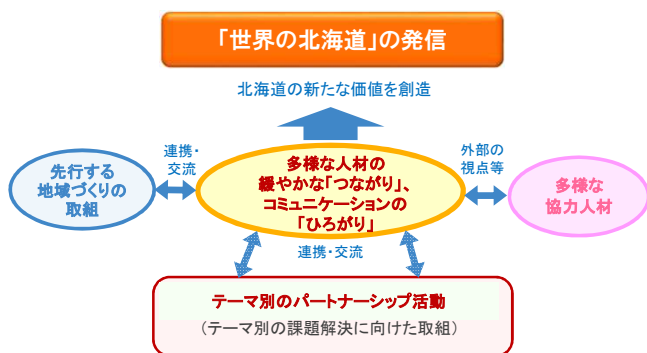
- 「観光先進国」**実現をリードする  
世界水準の観光地の形成
- 食料供給基地**としての持続的発展
- 食と観光を担う**「生産空間」**を支える取組
  - 北海道型地域構造の保持・形成
  - 地域づくり人材の発掘・育成
  - 強靱で持続可能な国土づくり

\*1 出典：総務省「国勢調査（人口推計）」、国立社会開発人口動態研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」、「平成24年度人口推計」、「平成24年度人口推計（地域別）」、「平成24年度人口推計（地域別）」、総務省「国勢調査（人口推計）」、国立社会開発人口動態研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」、「平成24年度人口推計」  
 \*2 出典：総務省「平成22年度国勢調査（人口推計）」、「平成22年度人口推計（地域別）」、「平成22年度人口推計（地域別）」、「平成22年度人口推計（地域別）」、「平成22年度人口推計（地域別）」  
 \*3 生産空間：ここでは、主として農業・漁業に係る生産の場（特に市町村域の範囲）を指す。生産空間は、生産の場のみならず、観光の他の多面的・公益的機能も提供している。

○本格的な人口減少時代にあって、地域を活性化し、価値創造力を高めていくためには、「人」こそが資源。  
○多様な人材の「つながり」とコミュニケーションの「ひろがり」を促進し、「世界の北海道」を目指す。

## 北海道価値創造パートナーシップ活動の展開

◎ 地域サポート力の向上、北海道内外の人材交流の場づくり、優良な取組の評価・普及を推進



### 事例：北海道価値創造パートナーシップ会議



平成31年1月25日(金) 札幌市

- 基調講演
- 「世界に通用する「食」のブランド構築に向けて」  
(株)オフィス内田 代表取締役会長 内田勝規氏
  - 「北海道に選ばれる観光地の形成に向けて」  
跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 准教授 篠原靖氏

参加者の  
意見・感想

- 北海道の素材の良さに自信を持った。今後必要なのは素材を活かすアイデアと工夫(必要な要素は「インパクト」「連携」「行動」)。
- 「本物」「いまだ、ここだけ、あなただけ」という視点が資源を見つけ、磨いていく際のキーワード。
- 海外市場と向き合うとき、国内他地域だけではなく世界各地の相手とも競争しているのだという「気づき」があった。
- ターゲットに対するマーケティング結果、ニーズへの対応等について、情報化社会の中で反応速度を上げることが求められている。

道内外の地域づくり活動者、有識者、関係機関等による基調講演、意見交換を実施。約230名が参加。「世界の北海道」をテーマに、北海道の「食」及び「観光」について意見交換。



- 「世界の食市場の獲得に向けて」意見交換
- ファシリテーター: 林委員
- 池田 明氏 (石屋商事(株) 商品部マーケティング室課長)
- 鳥取義之氏 ((一社)北海道国際流通機構代表理事)
- 阿部真久氏 (NPO法人ワインクラスター北海道代表理事)
- 岸本 稔氏 (株日本政策投資銀行北海道支店次長兼企画調査課長)



- 「世界水準の観光地の形成に向けて」意見交換
- ファシリテーター: 矢ヶ崎委員
- 荒井一洋氏 (北海道アドベンチャートラベル協議会会長)
- 木藤勇人氏 (北海道観光振興機構誘客推進事業部事業部長)
- ポール・ハガート氏 (ツーリズム・コンサルタント)
- 西村理佐氏 (Follow Me JAPAN代表取締役社長) ※都合により欠席



- 「食」及び「観光」に関する取組事例の紹介
- 食分野における重点取組 (北海道経済産業局)
  - 北海道観光を変えるアドベンチャートラベル (北海道運輸局)
  - みなどを通じた農水産品輸出及び観光振興の取組 (北海道開発局)

## 様々なテーマに関するパートナーシップ活動

### 事例：世界水準の観光地の形成に向けたセミナー



平成30年11月9日(金) 名寄市

矢ヶ崎委員、学識経験者、関係市町、観光協会、観光関係事業者等の参加によるセミナーを開催(65名参加)

### 事例：モデル地域圏域検討会



平成31年1月29日(火) 名寄周辺モデル地域観光スポーツワーキングチーム(第1回)

地域構造の保持・形成に向けた施策パッケージ(以下、「施策パッケージ」とりまとめ、引き続き、地域の課題を議論・共有するワーキングチームによる意見交換会を開催



平成30年4月 名寄周辺モデル地域圏域検討会

### 事例：「生産空間」維持・発展の取組の全道展開に向けたシンポジウム



平成31年2月28日(木) 札幌市

学識経験者、関係市町、北海道、経済団体等の参加によるシンポジウムを開催(約280名参加)

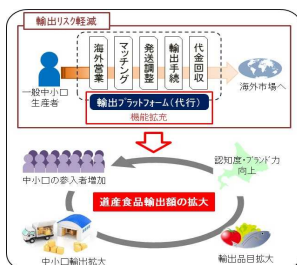
地域存続のために今何が必要か参加者が一緒に考え、連携を広げて知恵を絞り、一つ一つの取組を積み重ねていくことの重要性について認識を深めた。モデル地域での取組を参考に全道各地域で生産空間の維持・発展に資する取組を展開。

### 事例：北海道技術者育成プラットフォーム



建設分野における人材不足、技術継承といった課題解決に向けて、産学官の関係機関が連携し、「北海道技術者育成プラットフォーム」を設立。各機関が有するノウハウを活かし、研修及び講習会の実施等、産学官が連携して総合的に取組を推進。

### 事例：「食」のワンストップ輸出



関連団体と連携し、北海道産食品の輸出拡大に向けた仕組みづくりを推進。平成30年度に2回の輸出販売実証実験を実施。

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
			● 価値創造の優良な取組「世界の北海道」の発信		
● 北海道価値創造パートナーシップ会議の開催				● 人材の交流・協働の更なる促進	



## 世界水準の観光地の形成に向けたセミナー（オホーツク・釧路）開催

- 【日 時】 平成29年11月10日（金） 15:00～18:00
- 【場 所】 北海道開発局網走開発建設部 会議室
- 【参加者】 自治体、観光協会、民間企業等 約50名
- 【プログラム】 (1)世界水準の観光地の形成について(国土交通省北海道局)
- (2)基調講演 観光地域づくりにおける連携の重要性  
国土審議会北海道開発分科会特別委員 矢ヶ崎紀子 氏  
(東洋大学国際観光学部国際観光学科准教授)
- (3)事例発表・意見交換 一般社団法人知床羅臼町観光協会事務局長 池上美穂 氏  
NPO法人森のこだま代表 上野真司 氏  
ピュアフィールド風曜日 三木和子 氏

## 世界水準の観光地の形成に向けたセミナー in 名寄 開催

- 【日 時】 平成30年11月9日（金） 15:30～18:30
- 【場 所】 駅前交流プラザ「よろーな」1階 大会議室
- 【参加者】 自治体、観光協会、民間企業等 約70名
- 【プログラム】 (1)世界水準の観光地の形成に向けて(国土交通省北海道局)
- (2)基調講演 観光地域づくりにおける連携の重要性  
国土審議会北海道開発分科会 特別委員 矢ヶ崎 紀子 氏  
(東洋大学国際観光学部国際観光学科教授)
- (3)事例発表・意見交換 NPO法人なよろ観光まちづくり協会事務局長 畑中覚是 氏  
株式会社北海道宝島旅行社 代表取締役社長 鈴木宏一郎 氏

釧路・根室・オホーツク地域の一部の**20市町村の行政、観光協会、シーニックバイウェイ等の広域連携**のもと、**地域ならではの観光情報を立ち寄り拠点に集約し、外国人観光客に対して周辺情報を一元的に発信**することで、**周辺地域の更なる周遊を促進**

## 地域の行政、観光協会、シーニックバイウェイ等で構成される地域連携による協議会

### 20市町村の行政・観光協会・シーニックバイウェイ等

○各地域が外国人旅行者に発信したい  
**地域ならではの観光情報(旬・コアな情報)**  
等の立ち寄り拠点への提供



### 複数の立ち寄り拠点

○休憩、買物、情報収集等の多様な目的で  
観光客が立ち寄る施設の特徴を活かし、  
**周辺地域の観光情報等の一元的発信**に  
よる**外国人旅行者の周遊促進**



立ち寄り拠点で発信した情報の  
旅行者による閲覧状況(平成30年度の事例)

### 北海道開発局

○試行の**実施支援**  
○**デジタルツールを用いた地域ならではの観光情報等の発信**



**立ち寄り拠点の情報発信機能の強化並びに周辺地域の情報発信機会の創出及び外国人旅行者の増加**が期待される  
インバウンド対策の強化をテーマとして、立ち寄り拠点と地域がともに育つ新たな広域連携の枠組みとなることを企図

**今年度の  
拡充内容**

情報発信箇所

対象地域

平成30年度

道の駅「摩周温泉」観光案内所 (1箇所)  
弟子屈町周辺の市町村 (14市町村)  
→外国人観光客の周遊促進に有効で  
あることを確認

拡充

令和元年度

複数箇所  
20市町村

→地域や情報発信箇所をさらに広げて  
取組を実施

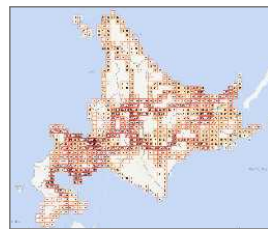
○外国人ドライブ観光客の移動経路等のデータを「北海道ドライブ観光促進プラットフォーム」で共有し、道内各地の外国人ドライブ観光の推進に活かしていく取組を推進。

## 平成30年にはじめて通年で把握した外国人ドライブ観光客の周遊・滞在動態

・スマホ用アプリを活用して来道外国人ドライブ観光客に観光情報等を発信し、同時に移動経路や立ち寄り場所等を把握・分析する調査を実施。平成30年に、はじめて通年でGPSデータを取得し、分析結果をとりまとめ公表。

■外国人ドライブ観光客は、レンタカー以外の交通手段では訪問が難しい地域も含めて北海道各地を広く周遊。

GPSデータによる移動経路



凡例  
10kmメッシュ別測位者数

10以下
11以上50以下
51以上100以下
101以上500以下
501以上

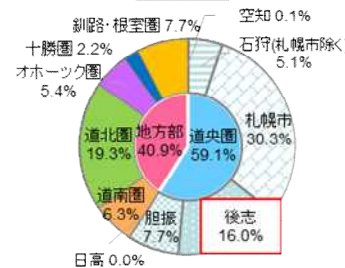
■外国人ドライブ観光客の地方部(道央圏以外)への宿泊割合(47%)は、来道外国人旅行者全体(26%)よりも高い結果。

■外国人ドライブ観光客の目的地は、雪、ラベンダーなど、季節で変化。

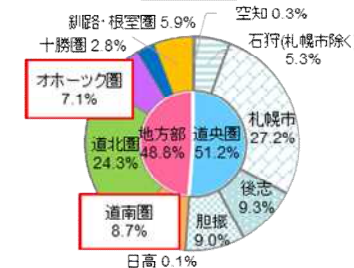
・1-3月期は後志、4-6月期はオホーツク及び道南、7-9月期は美瑛・富良野を含む道北の宿泊割合が高まる。

四半期別 圏域別宿泊割合

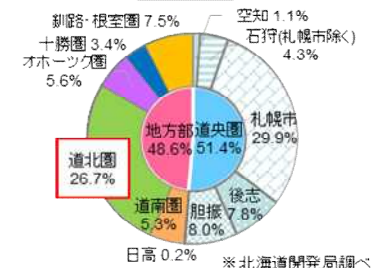
1-3月期



4-6月期



7-9月期



※北海道開発局調べ

## 北海道ドライブ観光促進プラットフォーム

・外国人ドライブ観光客の移動経路等のデータを継続的に把握・共有し、オール北海道で外国人ドライブ観光の推進に取り組むことを目的に、「北海道ドライブ観光促進プラットフォーム」を設立。【平成30年6月28日設置11機関 → 令和元年9月26日現在85機関】

・データは、スマートフォン用アプリケーション「Drive Hokkaido!」により把握。

・四半期毎に外国人観光客の動態に係るデータを会員限定のWEBページで共有するとともに、参加機関が一堂に会してドライブ観光の更なる促進のための情報交換を行う会合を開催。

北海道開発局

・プラットフォームの運営(事務局)

株式会社ナビタイムジャパン

・アプリの運営及びデータ取得・整理

参加機関

・共有されたデータを活用して外国人ドライブ観光促進に取組



国土交通省北海道局

## 見よ！北海道が世界に誇る取組を ～「世界の北海道」の募集について～

北海道局では、世界との連携・競争に挑戦する様々な取組を募集し、他者の参考となる優良な取組を選定・表彰の上、北海道の誇りとして発信・PRいたします。

「北海道」と聞いて連想するもの、「北海道」のお薦めは？と聞かれて紹介したいもの。沢山の美味しい食べ物、緑あふれる大自然、ここでしか見られない動植物、平らに続くのどかな田園風景など、人それぞれいくつか挙げられると思いますが、それらを生み出し、支え、守る取組があって、今の北海道があります。



そうした北海道の今を築き、北海道の価値を高める「世界の北海道」と呼ぶにふさわしい優良な取組を選定・表彰の上、インターネット、冊子、フォーラムや各種イベント等を通じ、道内外へ広く発信していくほか、取組の内容に応じた効果的なPRを行って参ります。

具体的には、現在活動中の世界とつながる又は世界に目を向けた取組のうち、

- **北海道の資源や特性を活かした取組**
- **自らの創意工夫や多様な主体との連携・協働により、新たな価値を生み出し又は地域の活性化に貢献する取組** を募集します。

- ※ **応募期間は、令和元年10月18日（金）から同年12月13日（金）までです。**
- ※ **応募方法は、別紙をご参照ください。**
- ※ **選定結果は、令和2年3月頃公表予定です。**
- ※ **募集する取組のイメージや応募主体等の詳細は、国土交通省ホームページ又は裏面のQRコードからアクセスしてください。**

ここでしか行っていない独創的な取組や、世間には知られていない長年の努力など、是非この機会に紹介させてください。沢山のご応募をお待ちいたしております！

【問い合わせ先】国土交通省 北海道局参事官付 田代、佐藤、木下  
電話（代表）03-5253-8111（内線52214・52223）  
（直通）03-5253-8771（FAX）03-5253-1672

### ◇ 応募方法

応募要領に基づき、応募様式に必要な事項を入力の上、以下のアドレスまでご応募願います。

[hqt-sekai@gxb.mlit.go.jp](mailto:hqt-sekai@gxb.mlit.go.jp)

- ※ 本取組に係る応募要領、応募様式等はここから  
（国土交通省ホームページ）[http://www.mlit.go.jp/hkb/hkb\\_tk7\\_000091.html](http://www.mlit.go.jp/hkb/hkb_tk7_000091.html)  
（QRコード）



### ◇ 参考 ～ 「世界の北海道」とは！？

第8期北海道総合開発計画（平成28年3月閣議決定。計画期間：2016年度から概ね2025年度まで）では、グローバルな競争の一層の激化、国内人口の減少が見通されるこれからの時代において、北海道が引き続き我が国に貢献し、地域が活力ある発展を果たしていくためには、世界との競争・連携に挑戦していくことが重要であるとして、「世界の北海道」をキャッチフレーズに、「世界水準の価値創造空間」の形成を目指していくことを計画のビジョンとして掲げています。

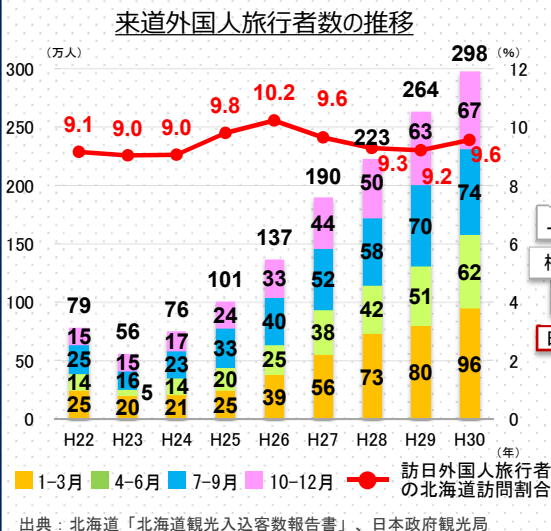
その一環として、世界水準の取組やフロンティア精神を発揮した取組等を「世界の北海道」として評価・選定するものです。



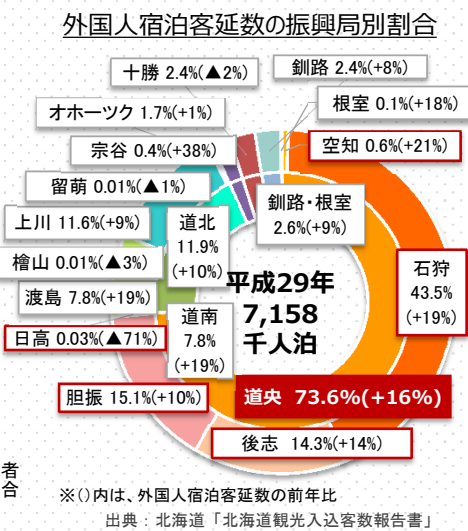
- 外国人旅行者は着実に増加。一方で、外国人旅行者の訪問先は道央圏に集中。客室稼働率の季節変動も大きい。
- 北海道が率先して「全道・通年・フル稼働」を目指すことにより、我が国が目標としている「観光先進国」の実現をリード。

## 北海道観光の現状と課題

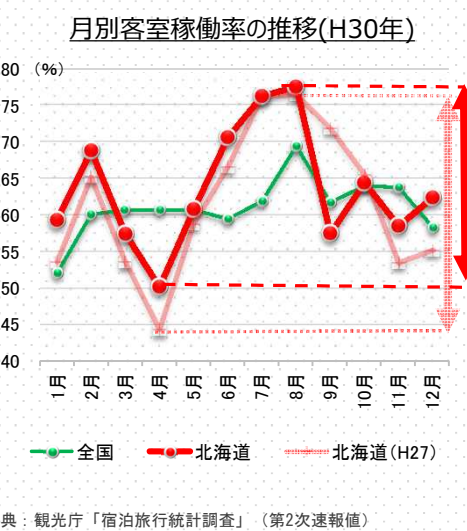
◆ 来道外国人旅行者は、胆振東部地震が発生した平成30年も増加。



◆ 来道外国人宿泊客延数は、地方部も増加しているが、道央圏が74%を占める。



◆ 客室稼働率の季節較差は、縮小傾向であるが、全国と比較すると依然大きい。



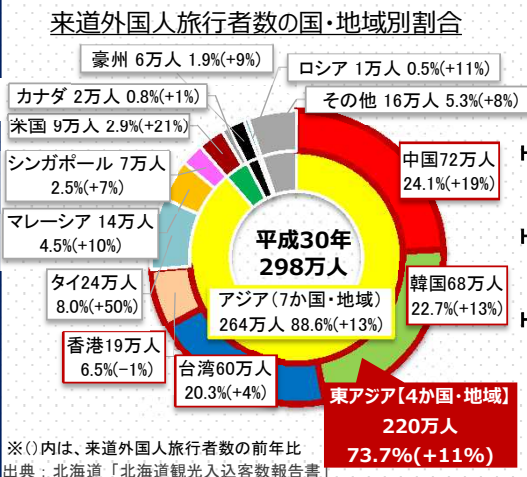
## 世界水準の観光地の形成に向けて

- 外国人旅行者の安全・安心と広域的な周遊を促進する**受入環境整備**
- 地方部への誘客、旅行消費額の拡大、欧米豪からの誘客やリピーター確保等に資する**多様な観光メニューの充実とそれらの情報発信**
- 地域の取組を支える**関係者の連携・協働**

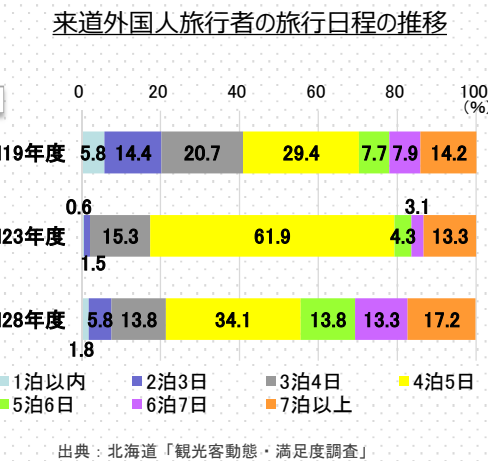
## 主な施策等

- ゲートウェイ機能の強化、観光地等への**アクセス強化**
- 多言語による情報提供等の充実、**地域拠点**を活用した**情報発信**
- **ドライブ観光、サイクルツーリズム、河川空間やインフラを活用したツーリズム、アドベンチャーツーリズム**等の促進
- 観光資源磨き上げ、一元的な情報発信等の**広域的な連携による誘客促進**
- シーニックバイウェイ等の**地域活動団体との連携**、セミナー等による観光への**意識醸成**

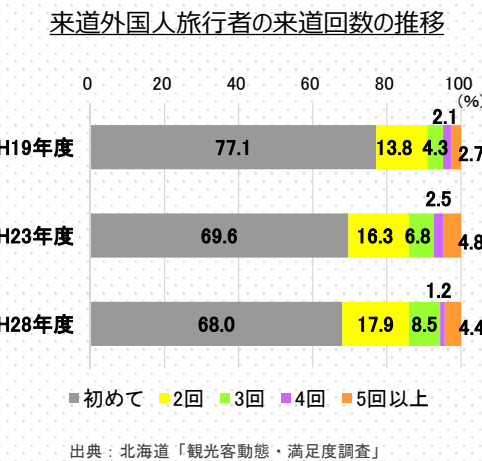
◆ 国・地域別割合はアジアが88%を占める。



◆ 来道外国人旅行者の旅行日程は長期化(特に5泊以上の伸びが増加)。



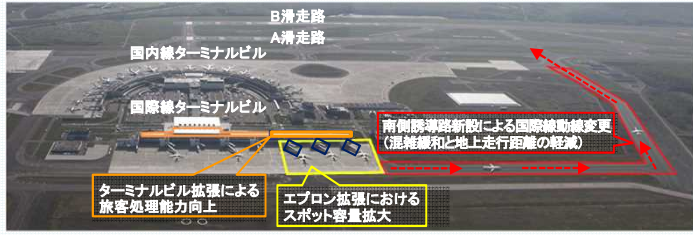
◆ 来道外国人旅行者の来道回数は増えており、リピーターが増加。



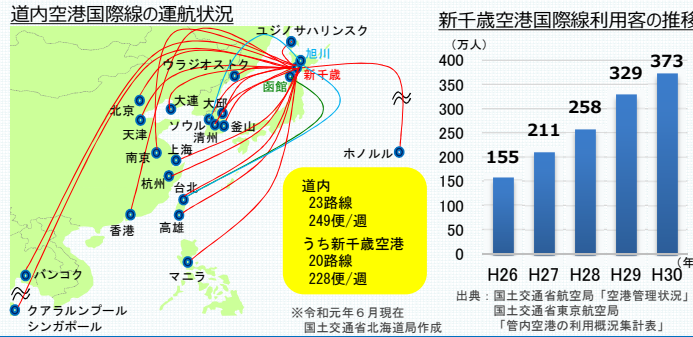


○ ゲートウェイである新千歳空港の機能強化・函館港などクルーズ船の受入環境の改善や観光地や主要な空港・港湾等へのアクセス強化を図る高規格幹線道路等の整備を推進するとともに、外国人旅行者に優しい道路情報の提供など、外国人旅行者の安全・安心かつ広域的な周遊を促進する取組を推進。

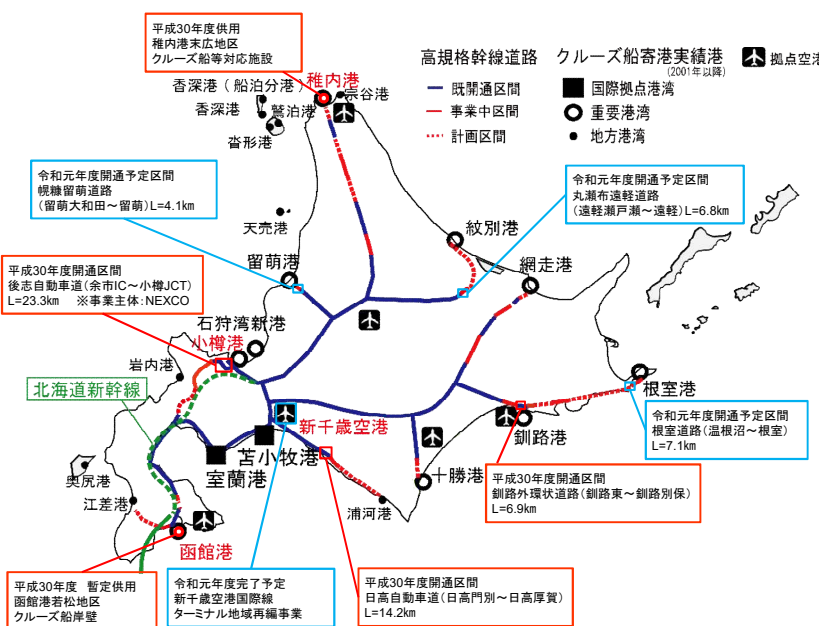
## ■ 新千歳空港の機能強化



●平成28年度からの国際線航空便の乗り入れ制限の緩和及び1時間当たりの発着枠の拡大を最大限活用し、国際線航空便の受け入れ拡大を着実に実施。



## ■ 受入環境整備状況



## ■ 空港・港湾とのアクセス強化

●観光地や主要な空港・港湾等へのアクセス強化を図るため、高規格幹線道路等のネットワークの構築や、ICアクセス道路等の整備を推進。



釧路外環状道路 (釧路東IC～釧路別保IC) 釧路中環状道路 (一般国道272号) 上別保道路 開通式 (平成31年3月9日)

## ■ クルーズ船の受入環境の改善

- クルーズ船の大型化への対応 (函館港、小樽港、稚内港) … クルーズ船岸壁等の整備
- 稚内港では平成30年7月に供用され、「飛鳥II (5万GT)」が寄港。
- 函館港では平成30年10月に暫定供用され、「アザマラ・クエスト (3万GT)」が寄港。JR函館駅からわずか約300mの距離に位置しており、旅客の滞在時間延長や観光消費への効果が期待。



稚内港の供用式典 飛鳥II寄港 (平成30年7月)

函館港に寄港した大型クルーズ船 (平成31年4月)

## ■ 外国人旅行者に優しい環境整備

- 道路情報板における英語による道路情報発信

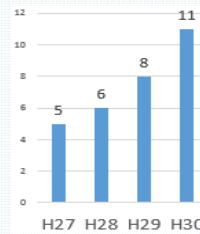


「通行止め解除予告」の英語表示

- 「道の駅」における取組 日本政府観光局認定外国人観光案内所 (全道で11駅が認定)



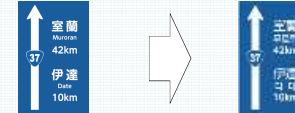
道の駅「流水街道網走」



- 多言語でのドライブ情報発信

・スマートフォンアプリを活用し、外国人観光客の多い地域で、多言語による道路案内標識情報や道の駅施設情報などの情報発信。

○進行方向の案内 (音声案内)



▲日本語での表示 (イメージ) ▲多言語での表示 (イメージ)

○道の駅施設情報



▲日本語での表示 (イメージ) ▲多言語での表示 (イメージ)

- 北海道ドライブまるわかりハンドブック

・外国人旅行者が安全・安心・快適にドライブ観光を楽しむためのポイントを整理。

- 8言語で作成 (日・英・繁・簡・韓・タイ・仏・独)
- レンタカー協会や日本政府観光局 海外事務所等のホームページに掲載





- 移動を含めて楽しむドライブ観光やサイクルツーリズム、河川空間やインフラを活用したツーリズム、自然体験を観光メニューとするアドベンチャートラベルなど、道内各地の地域資源を活かして魅力ある観光メニューを創出する取組を推進。
- 観光振興に携わる多様な人材や関係機関が連携・協働を図る取組を推進。

## ■ サイクルツーリズムの推進

- 平成29年度から、5つのモデルルートにおいて、地域や道路管理者等が連携した自転車の走行環境、受け入れ環境の改善・充実、情報発信の試行を実施。
- サイクリスト目線でのルート環境整備の確認やサイクリストに広くルートの魅力を周知することを目的に、全ルートでサイクルイベントを実施。

5つのモデルルート

- きた北海道ルート
- 石狩川流域圏ルート
- 富良野・占冠ルート
- 阿寒・摩周・釧路湿原ルート
- トカプチ400

○受入環境の改善  
▼休憩施設の充実

サイクルラックや修理工具の設置  
(道の駅等の立寄施設)

○自転車走行環境の改善  
▼統一的なルート案内

案内シールによるルートの案内

○情報発信・サイクリストとのコミュニケーション

- ・モデルルートの地図や高低差、ビューポイントや休憩施設などのスポット情報を発信。
- ・利用者から評価・意見を投稿いただきサイクリング環境を改善。

総合的な満足度	4/5
道の走りやすさ	4/5
全体的に走りやすい道が多く、景色も最高でした!	

石狩川流域圏ルートの取り組み

石狩川流域の首長が参加した走行会 (H30年7月)

## ■ インフラツーリズム (インフラ歴史ツアー) の推進

- 民間観光ツアーの中に北海道開発局所管施設の見学を組み込む「公共施設見学ツアー」を平成25年度から実施。
- 平成30年度は、北海道命名150年に合わせて、これまで北海道の暮らしや産業を支えてきたインフラの整備の歴史や、インフラがもたらした効果を実感できる「インフラ歴史ツアー」を9回実施。

インフラ歴史ツアー実施例

【篠津・石狩編】  
国家的一大プロジェクト  
「篠津泥炭地農地開発」と石狩川治水の歴史

【小樽編】  
五感で感じよう！小樽の歴史  
北海道の経済を支えた「小樽港」と鉄道「手宮線」の歴史を探る

現在位置と高低差の表示

## ■ 河川空間を活用したツーリズムの推進

- 「かわたび北海道」プロジェクト (平成30年度から展開)  
川の自然環境や景観、水辺の活動、サイクリング環境等、川に関する情報を効果的に発信するとともに、地域と連携して、魅力的な水辺空間の創出、水辺の利活用を促進し、北海道らしい地域づくりや観光振興に貢献する「かわたび北海道」プロジェクトを推進。

「かわたび北海道」の主な取組

- 「川を知ってもらう」
  - ・HPを立上げ、SNS等も活用し川に関する情報を一元的に発信。
  - ・厚真川・安平川、鶴川・沙流川の情報発信を行い、北海道胆振東部地震からの復興を支援。
- 「つながる」
  - ・協会等への参加等、地域のキーマンとのネットワークの促進。
  - ・「かわたびコーディネーター」設置の試行、民間等と「かわたび交流会」を発足し、川の魅力情報発信や観光ツアーを企画・調整。
- 「河川空間の魅力向上・水辺利活用の促進」
  - ・かわまちづくり等による河川空間の魅力の向上や、公共見学ツアーの実施等による水辺の利活用を促進。

## ■ アドベンチャートラベルを通じた欧米豪市場からの外国人観光客拡大の取組

- 自然・異文化体験型観光による欧米豪市場からの外国人観光客の拡大、滞在時間の延長及び地域への旅行消費拡大を目指し、関係する民間事業者や自治体、北海道運輸局等により、「北海道アドベンチャートラベル協議会(HATA)」を設立(2017年6月)。
- 宣伝誘致、アドベンチャートラベルガイドの人材育成等に取り組む。2021年アドベンチャートラベルワールドサミットの北海道誘致を目指す。

設立総会の様子

外国人をターゲットにした情報発信

## ■ 地域や関係機関との連携による観光振興の取組

- 地域活動団体・取組との連携
  - ・シーニックバイウェイ北海道
  - ・かわたび北海道
  - ・「わが村は美しくー北海道」運動
  - ・北海道マリビジョン21
  - ・みなとオアシス
  - ・北海道価値創造パートナーシップ活動などの活動団体・取組との連携。
- 平成30年11月に候補ルート指定された「空知シーニックバイウェイ～体感未来道」

活動キャッチフレーズ  
「Let's 空知ing」

ワイナリー／サイクルツーリズム

- 「根室地域 (歯舞地区) マリンビジョン協議会」～農泊の推進 (渚泊推進事業)～
- 地場水産物のブランド化や各種イベント、遊覧船による周遊観光の他、各種体験学習や漁業者宅へのホームステイを実施。また旅行会社等に出向き、歯舞地域民泊・観光を誘致し、漁業体験や民泊を提供。
  - 歯舞漁協関係者が、各地で開催されている農泊や観光シンポジウムに講師として当地区の取組について講演。

農泊(渚泊)の様子

市場見学会の様子

## ■ MICE誘致

- 「国際会議等の北海道開催の推進について」(平成20年7月4日閣議了解)に基づき、各省庁連絡協議を設置するとともに、各省庁及び北海道内自治体のMICE担当者による情報交換会を開催し、国際会議等の北海道開催に向けた支援を推進。

G20観光大臣会合高級実務者級会合 (令和元年5月24日、倶知安町)



## 『国家的一大プロジェクト「篠津泥炭地開発」と石狩川治水の歴史』

開催日 : 平成30年7月28日(土)、8月18日(土)、9月1日(土)

参加者 : 52名(3日合計)

旅行会社 : (株)シービーツアーズ[札幌市]

かつては、地域を流れる石狩川が度々氾濫し、かつ、農耕が困難な軟弱で水はけの悪い泥炭地であった篠津地域。明治期からの治水対策と世界銀行の融資を受けて行われた国家的プロジェクト「篠津泥炭地開発」の排水・かんがい施設等の整備により、日本有数の穀倉地帯となるまでの成り立ちを学ぶ。

### 見学施設



### ツアーの様子

#### ●石狩川頭首工(月形町)



参加者の質問が次々と

#### ●江別河川防災センター



石狩川の「洪水との戦い」  
について説明

#### ●月形樺戸博物館



ガイドは前月形町長

#### ●幌向地区自然再生地(江別市)



地域の希少な湿性植物を観賞